

豊水トントンに600人が競演

～2006年のぼりべつ豊水まつり～

7月15日(土)・16日(日)、幌別北駅前通りとらいば公園で、夏の市民まつりとなっている『2006年のぼりべつ豊水まつり』(同実行委員会主催)が開かれました。

この催しは、ふるさと登別の豊かな自然と水に感謝するまつりとして、平成9年から毎年この時期に開催されているもので、今年で10年目を迎えました。

初日は、幼稚園児のかわいらしいバルーン遊戯で開幕。ジャンケン大会や缶つま競争などのゲームのほか、太鼓の競演が行われ、まつりを盛り上げました。

夜には、市民団体や地元企業などから17団体約600人の踊り手による大群舞『豊水トントン』が行われ、浴衣姿の華やかな舞いに、沿道の観客から大きな拍手と声援が送られていました。

2日目は、約30人の子どもによる『ちびっこ浴衣ショー』や西胆振の7チームが参加した『よさこいソーランinのぼりべつ』『ビンゴ大会』『10周年豊水カラオケ歌謡ショー』などが行われ、会場は、夏のまつりを楽しむ大勢の市民でにぎわいました。



いざというときのために

～赤十字救急法一般講習・救急員養成講習～

7月1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)の4日間、しんた21で『赤十字救急法一般講習・救急員養成講習』(日本赤十字社北海道支部主催)が行われました。

この講習は、思いがけない事故や病気から自分を守るとともに、急病人やけが人の応急手当ができるように正しい知識と技術を身につけてもらおうと、毎年この時期に行われているもので、12人が参加しました。

参加者は、講師を務めた日本赤十字社室蘭地区救急法赤十字奉仕団の指導員5人から、学科と実技で、心肺蘇生や止血、骨折、脱臼、ねんどの応急手当、AED(自動体外式除細動器)の使い方などを学習。参加者は、いざというときのために、真剣な表情で学んでいました。

最終日には、学科と実技の検定試験が行われ、合格者に『赤十字救急法救急員認定証』が交付されました。



市民の手で森を育てる

～ふおれすと鉾山流里山づくり

森林整備ボランティア『チカタビレンジャー』～

7月8日(土)、鉾山町で、ふおれすと鉾山流里山づくり森林整備ボランティア『チカタビレンジャー』の活動が行われました。

この活動は、『ふおれすと鉾山流里山づくりプロジェクト』の一環で、100年先の森づくりを目指し、鉾山町に誰もが持続的に楽しめる森を、市民の手で育てていくことを目的に、昨年から行われているもので、15人が参加しました。

この日は、今春、植樹した苗木の周りのクマザサやイタドリなどの下草を刈り取る作業。参加者は、初めに刈り払い機やかまの使い方を学んだ後、地下足袋や長靴を履き、丁寧に下草を刈り取っていました。

